

## 川原小学校の子ども達を育むために

- 子供の思い。保護者の思い。
- 地域の思い。先生達の思い。

} 教育目標  
その実現を目指して、  
多くの実践



でも、そんな中で、

生き難いと感じる子供はいないかな？ 支援は必要ないかな？

小学校の入学から小学を卒業するまでの6年間を  
子供には「ホップ → ステップ → ジャンプ」と成長して欲しい。



でも、そんな中で、  
時には躓いたり、倒れたり、立ち止まったりする子供もいます。

それは、成長の上で大切なことかもしれないが、なかには手助けが必要な子供がいるはず。

生き難い（人間関係や学習などに対して）と感じる子供はいないかな？  
支援は必要ないかな？  
子供は悩みを抱えていないかな？

もしかしたら、私たちはその躓きに気付いていないかもしれない。

多くの視線（私たち全教職員と保護者などの視線）により、  
多くの目で観察して、指導、支援を通して  
多くの手（教師）で育むことから始める川原小学校の教育を実践していきましょう。

「小さな生き難さが、年齢と共に大きな生き難さになることを」認識しなければいけません。  
「問題が起きてから」という考えでは、子供が辛い思いをする時間が長くなります。  
「必要に応じて」という考えでは、対応が遅くなります。

生き難さを感じた子供に関わる教師も辛い思いをするはずです。

- 違った考えや生き方をする他の子供と、仲良くやっていけるかな？
- 少人数で助けられて育った子供は、中学校でも同じような支援ができるのかな？
- 学習に躓いた子供は、学年が上がるにつれ授業を辛く感じないかな？
- 授業をしながら、子供と接し、保護者と接する中で、不安はありませんか？

生き難いと感じる子供はいないか。支援は必要ないか。  
多くの目で観察して、多くの手で育むことから始める教育を実践してみましよう。

一つの研修が、一人の教師による気づきが



研修、気づき  
が、職員室など  
で話題になれば・・



多くの人の実践  
に繋がるはず。

